

BL TEC News ビーエルテックニュース

2010年4月号

Vol.14

第6回オートアナライザーシンポジウムのご案内

第6回オートアナライザーシンポジウムを2010年6月11日(金曜日)梅田スカイビル タワーウエスト36階にて開催いたします。

【開催日時】 平成22年6月11日(金)

●シンポジウム 13:00~17:30 ●シンポジウム懇親会 18:00~20:00

【開催場所】 梅田スカイビル タワーウエスト 36階 大阪市北区大淀中1丁目1番

- | | |
|-------------------------|--|
| ◆ 協会挨拶 | オートアナライザー協会 オートアナライザー協会 会長 三重大学 生物資源学部 教授 前田 広人 |
| ◆ 八代海の環境保全について | 熊本県立大学 環境共生学部 環境資源学科 教授 大和田 紘一 |
| ◆ 流れ分析法のJIS化の動向 | 財団法人日本環境測定分析協会 会長 株式会社環境管理センター 取締役 執行役員部長 橋場 常雄 |
| ◆ (仮題)瀬戸内海の栄養塩異変 | 香川大学 農学部 応用生物科学科 教授 多田 邦尚 |
| ◆ (仮題)流れ分析法による水質分析への適用例 | 住友金属テクノロジー株式会社 和歌山事業所 試験部 部長 岡 圭男 |
| ◆ 琵琶湖流入河川の水質・負荷量の詳細調査 | 滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター 総合解析部門 副部門長 大久保 卓也 |
| ◆ コントロールサーベイについて | ビーエルテック株式会社 技術部 主任 西村 崇 |
| ◆ 懇親会 | 18:00~20:00 (参加費 1,000円) |

※参加費は、無料となっておりますが、事前登録制(定員制)ですので、聴講希望の方は、6月10日までにお申し込み下さい。

※シンポジウム終了後に交流会(事前登録制:有料)を予定しておりますので、こちらも奮ってご参加下さい。

ごあいさつ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜りまして厚く御礼申し上げます。

お蔭様をもちまして、今年も第6回オートアナライザーシンポジウムを開催する運びとなりましたので、皆様にご案内申し上げます。

既にご承知の方も多いかと存じますが、多くの方々のお力添えにより、この度オートアナライザーの基本原理解である連続流れ分析法が日本工業規格(JIS)に承認されるべく作業が進んでおります。これもひとえにユーザー様初め皆様方のご支持、ご鞭撻によるものと感謝いたしております。

本協会は分析装置であるオートアナライザーを通じて、顧客の学術的交流をしていただく場をご提供するものであります。

事務局として、このような社会的に意義のある活動に貢献できることを誇りに感じております。

またシンポジウム終了後、演者の先生方との交流会もご用意させていただいておりますので、ご多忙中大変恐縮ではございますが、交流会にも是非ご出席くださいますようお願いいたします。

敬具

オートアナライザーシンポジウム事務局 ビーエルテック株式会社 代表取締役社長 川本 和信

第14回 | 近赤外国際会議のご報告

昨年11月7日から16日の間、タイのバンコクにおいて近赤外(NIR)の国際会議がありましたのでご報告します。

会議名称 NIR-2009 第14回近赤外国際会議
(NIR-2009 Breaking the Dawn The 14th International Conference on Near Infrared spectroscopy)

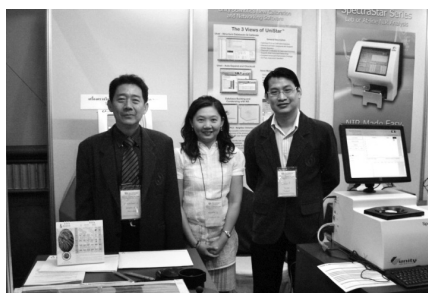
場 所 バンコク アマリウォーターゲートホテル

日 時 11月7日-13日(会議期間は7-16日)

参加者 443名 参加国数34ヶ国
参加国の内訳は、主催国であるタイ国が148名、次いで日本から47名、中国32名、アメリカ29名、オーストラリア22名、次いでEU加盟国、韓国等の順でした。

会議では、さまざまな分野での研究結果や応用事例の発表があり、もはやBreaking the Dawnのサブタイトルがつけられているのは、いささかの違和感がありました。また、経済発展めざましい中国からは、日本に次いでたくさんのお客がありました。

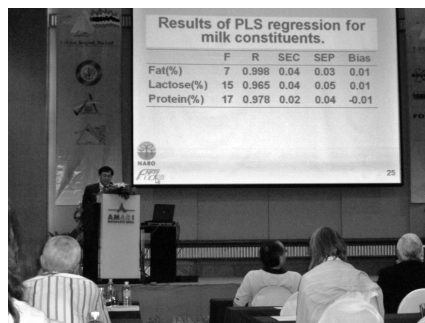
弊社が販売している米国のユニティサイエンティフィック社は、同会議のスポンサーとなりスペクトラスター2500Xや2400Dを展示し、大変にぎわいを見せていました。2500Xは680~2500nmを1.2秒でスキヤニングするタイプで、このような低波長から高波長までスキヤニングする最新機種は他にはありません。



ユニティサイエンティフィック社の展示ブースにいたタイの代理店のみなさん

また耐振動、防塵、防湿構造、パソコン不要の仕様も他にはなく過酷な環境下でも使用に耐えうるため工場内で使用するには最適です。

この会議で最高の賞であるトーマスハッシュフィールド賞は、食品総合研究所の河野澄夫先生が受賞されました。タイトルは「How to get a beautiful spectra」です。



河野先生の講演風景

1987年より始まったNIRを用いた果物の評価試験法の開発は、桃から始まり、その後種々の試料測定法を研究・開発してきた中で、ケモメトリックスの働きは大変重要ではあるが、検量線作成前にさまざまな温度試料のスペクトルをとることにより、温度変化に影響の受けにくい検量線作成のお話は会議の参加者たちに強い印象を与えたように思いました。

さて、次回第15回は来年、南アフリカのケープタウンの予定ですが、さらなる発展した会議になることでしょう。



会議風景

書籍
紹介

連続流れ分析法

~自動化学分析CFAの基礎から環境分析まで~

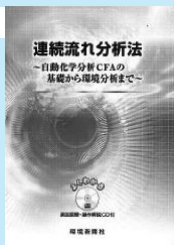
内容紹介

連続流れ分析装置は、米国で実用化され世界で最初に市販された自動化学分析装置です。誕生から50年が経ち、わが国においても、環境分野をはじめ多くの分野で1千台以上のオートアナライザーが実稼働しています。本書は連続流れ分析装置を使用するに当たって、知るべき原理や保守管理の詳細を分かりやすく解説したものです。2008年に弊社が出版したA4版の解説書を、来春にも流れ分析がJIS化される見通しになったことを受け、一部改訂し書籍化しました。

*分析装置の概要を動画とアニメで紹介するCD付きです。

商品の詳細

単行本：207ページ 言語：日本語
出版社：環境新聞社(2009/10/20) 発売日：2009/10/20



ビーエルテック株式会社は、2009年12月24日に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証登録証を取得いたしましたので、下記のとおりご案内申し上げます。

記

- 認証機関：株式会社 日本環境認証機構
- 認証規格：ISO 14001:2004 / JIS Q 14001:2004
- 登録番号：EC09J0070
- 認証場所：本社(大阪)、東京本社
- 対象業務：自動化学分析装置の設計、製造、販売、サービス
- 認証日：2009年12月24日

新製品のご紹介

近赤外分析計スペクトラスター2500XRTW (SpectraStar RTW)の販売を開始いたしました。

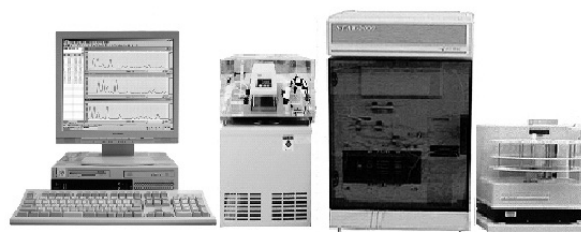
近赤外分析計スペクトラスターは、近赤外分析計で定評のあったインフラライザーの後継機として開発されました。今回新たに波長範囲680nmから2500nmをカバーするスペクトラスター2500XRTWが新登場しました。

豊富なサンプリングデバイスと堅牢性に加えて低波長(680nm)より測定可能なSSRTWは検量線移設ソフトTransStarと組み合わせることで、従来のあらゆるメーカーの近赤外分析計の検量線を、手分析なしに移設することが可能です。



改正土壤汚染対策法に対応したふっ素、シアンの自動化学分析装置 オートアナライザーSTAT・FCN新登場

改正土壤汚染対策法に対応できるふっ素、シアン自動化学分析装置STAT・FCNは新メソッドの開発によりシアン、ふっ素などの蒸留項目を1台で試薬を切り替えることで1台の装置で複数の分析が可能なることから、装置導入のインシヤルコストを下げるができます。また土壤汚染対策の土壤溶出液の他に、地下水、工場排水などの分析も可能です。



オートアナライザーSTAT・FCN

特長

1. 1時間に約20サンプルを分析可能。
2. JIS法に準拠。煩雑な蒸留も自動で行える。
3. 40本掛けのオートサンプラーを標準装備。
4. サンプル、試薬、廃液が非常に少量。
5. サンプラーと本体の設置スペースは、横幅約100cmと非常にコンパクト。
6. 試薬を切り替えてふっ素、シアンが測定可能。

姉妹品

オートアナライザーSTAT全窒素・全リン
上下水道局の水質管理に最適です!

※弊社のオートアナライザー連続流れ分析装置は前処理装置(蒸留・オートクレーブ)を含めたシステムでJIS化を目指しています。

オンラインモニターV型シリーズ シアン・フッ素・フェノール等の連続モニターシステム

連続蒸留+比色分析法による連続水質監視計

開発の背景

水質環境規制・飲料水の安全監視に対応すべく開発された高感度・高精度の連続水質監視モニター装置です。

ビーエルテック社の連続流れ分析技法(Continuous Flow Analysis CFA)を連続監視モニターに応用した最新型水質監視モニター装置で、JIS法に準拠したシアン・フッ素・フェノール等の連続蒸留法と比色分析法を採用しているため、妨害物イオンの影響を受けない測定が可能です。

特長

- ◆ 世界で認められた連続流れ分析技法を用いたモニター装置
- ◆ 高感度・高精度なJIS準拠の比色分析法を採用
- ◆ 長期安定性に優れた堅牢な設計
- ◆ 連続蒸留装置(シアン・フッ素・フェノール等)を組み込んだ比色法

用途

- ◆ 工場排水の監視 ◆ 湖沼・河川の水質監視
- ◆ 飲料水の水質監視
- ◆ 下水道設備のモニタリング ◆ 工程管理

分析項目とシステム

- ◇ 連続蒸留システム組み込み型連続水質監視モニター
シアン・ふっ素・フェノール
- ◇ 全窒素・全リン連続水質監視モニター
銅カドミ還元カラムを用いた全窒素測定により海水や汽水域の全窒素・全リンの測定が可能です。
- ◇ 栄養塩連続モニター
硝酸・亜硝酸・アンモニア・リン酸のうち2項目同時測定
- ◇ その他の測定項目
ホウ素・シリカ・六価クロム・アルカリ度・アミノ態窒素・糖・ヒドロジン・硬度等
- ◇ 地球温暖化調査項目
海水の炭酸ガス濃度・アルカリ度の船上オンラインモニター



第4回 コントロールサーベイ(精度管理)のご案内

平素は特別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社では2007年よりオートアナライザーをご使用の皆様に対し、外部精度管理(検査室間精度管理)の一つであるコントロールサーベイを実施しております。

本年度も5月中頃に参加費無料で「第4回コントロールサーベイ」を実施させていただき運びになっておりますので、ご多忙のこととは存じますがよろしく申し上げます。

コントロールサーベイは、その結果に対して全国の他施設との比較、測定機器の精度管理、分析技術の向上を計れることからご参加頂ける皆様に於かれましても非常に意味のあるものと考えます。参加したい項目、参加したい試料だけのお申し込みも受け付けておりますので、ご遠慮なくご参加下さい。結果は、ご報告頂いた値を統計処理し、施設ごとに平均値、Zスコア、全国比較図、比較表等を添付してお送りさせて頂く予定です。

参加対象項目は、調製試料で全窒素、全りん、ふっ素化合物、シアン化合物、フェノール類となっておりますが、その他に環境水および排水の試料では、上記項目の他に栄養塩類(硝酸態窒素、亜硝酸態窒素、りん酸態りん、アンモニア態窒素、ケイ酸態ケイ素)の測定も可能となっております。

今年度は、海水、河川水の他に生活排水(高濃度、低濃度)の試料も取り入れることで、より幅広い試料間での精度管理の比較が行えるものと考えております。またこれら試料につきましては、栄養塩類のみの参加も受け付けております。

本試料は、株式会社環境総合テクノス(KANSO)様にご協力頂き、オートクレイブ処理を行ったものを使用していることから、試料の品質も保証できるものとなっております。

受付期限は2010年3月31日までとなっておりますが、数量に余裕があるようであれば追加で参加を受け付けます。参加を希望される施設は、弊社ウェブサイト(<http://www.bl-tec.co.jp/>)でご確認頂くか、直接電話にてご連絡下さい。

その他ご不明な点がございましたら、弊社にお問い合わせ下さい。
TEL 03-5847-0252 FAX 03-5847-0255

オートアナライザーご使用のお客様へ

弊社では、オートアナライザーの精度を保つ為の、保守及び定期点検サービスを承っております。メンテナンスサービスは弊社の専門技術者がお伺いして、装置のアフターサービスをいたします。

アフターサービス・メンテナンスについての、お問い合わせ(サービス内容・価格等)は弊社技術部までお問い合わせください。

(弊社のアフターサービス担当者は、ポンプチューブやトランスミッションチューブの交換まで行うトータルなメンテナンスが可能です。)

第6回 オートアナライザーシンポジウムのご案内

■ 参加費 無 料 *事前登録制です

■ 事前登録制 ホームページからお申し込みください。

■ お申し込みのURL

<http://www.bltec-online.com/FormMail/aasympo2/FormMail.html>

日 時 ● 2010年6月11日(金)
13:00~18:00

場 所 ● 梅田スカイビル タワーウエスト 36階

■ ユーザ交流会

参加料 ● 1,000 円
*当日会場にてお支払いください。
*事前登録制

日 時 ● 同日 18:00~20:00
会 場 ● 同フロア

■ 問合せ

ビーエルテック株式会社内
オートアナライザーシンポジウム開催事務局
担当 木村

■ 連絡先

おおでんまちょう
東京都中央区日本橋大伝馬町14-15
マツモビル4F
TEL(03)-5847-0252
FAX(03)-5847-0255
URL/<http://www.bl-tec.co.jp>

ビーエルテック社の分析装置を用いた
学会発表を紹介いたしております。

日本土壌肥料学会2009年 京都大会

ディスクリートアナライザーを用いた
土壌交換性塩基測定の実用化

石川県農業総合研究センター 梅本英之 他

より農業現場に近いところでの土壌診断→適正施肥の重要性…品質向上、コスト削減、環境保全ソリューションのひとつとして、扱いやすく汎用性の高い自動分析装置を提供。
CaO、MgO、K測定についての発表がなされました。

※詳細につきましては弊社までお問い合わせください。

ビーエルテック株式会社 広報部

販売代理店

発行 | **ビーエルテック株式会社**
www.bl-tec.co.jp

本 社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-25-7 江戸堀ヤタニビル1F
TEL(06)6445-2332(代) FAX(06)6445-2437

東京本社 〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14-15 マツモビル4F
TEL(03)5847-0252(代) FAX(03)5847-0255

九州支社 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-9-14 フォロ博多501
TEL(092)481-6505 ※FAXは本社へ